

国指定
史跡

大町釈迦堂口遺跡

～暫定公開～

(〒248-0007 鎌倉市大町6丁目9)

公開期間 2/26～3/11
(土日含む)

公開時間 10時～16時

アクセス 徒歩 鎌倉駅東口から約30分
バス 「名越」バス停下車後徒歩(約15分)

ガイドツアー

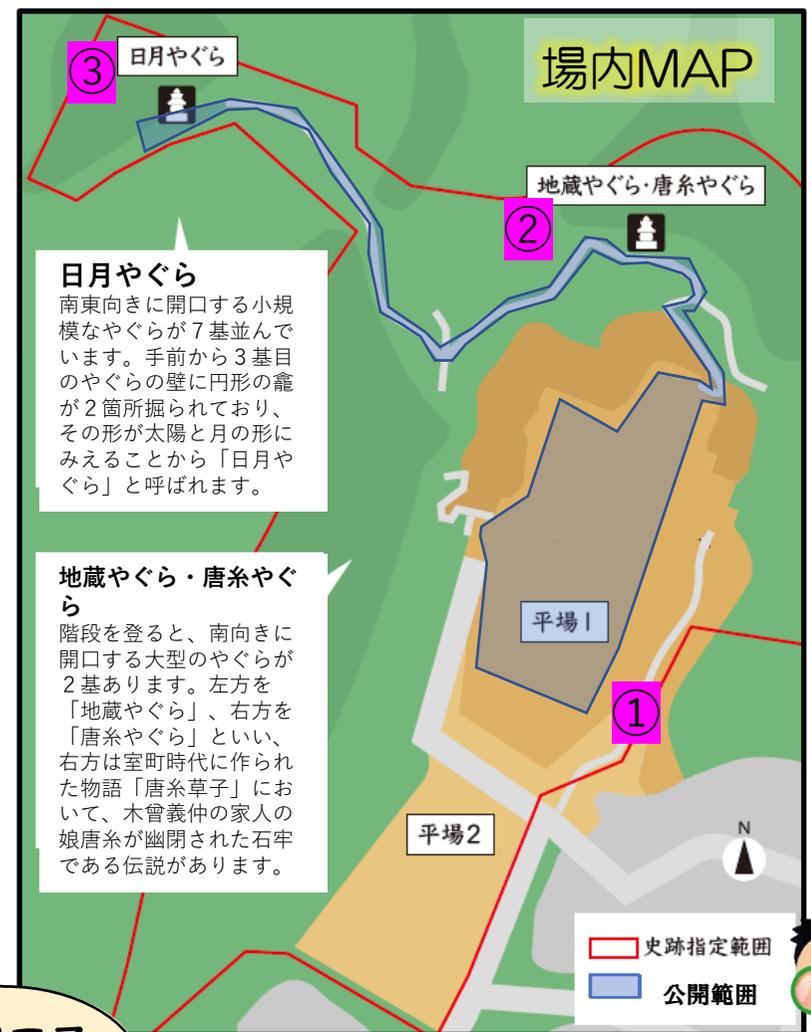
①10:15～ ②11:00～ ③14:00～ ④15:00～

各回5分前までには「北側平場」にお集まりください。

※場内舗装されていない道もありますので、ご見学の際には十分にお気を付けてください。

大町釈迦堂口遺跡は・・・

鎌倉市南東部にある「名越ヶ谷(なごえがやつ)」と呼ばれる谷戸の最奥部に位置している平場と、その周辺の山稜部に位置する遺跡です。平場北側の山稜部には地蔵やぐら・唐糸やぐら、日月やぐら等のやぐらが数多く存在しています。



日月やぐら
南東向きに開口する小規模なやぐらが7基並んでいます。手前から3基目のやぐらの壁に円形の龕が2箇所掘られており、その形が太陽と月の形にみえることから「日月やぐら」と呼ばれます。

地蔵やぐら・唐糸やぐら
階段を登ると、南向きに開口する大型のやぐらが2基あります。左方を「地蔵やぐら」、右方を「唐糸やぐら」といい、右方は室町時代に作られた物語「唐糸草子」において、木曾義仲の家人の娘唐糸が幽閉された石牢である伝説があります。

見どころ

①北側平場(平場1)

数多く現存するやぐらワールドのエントランス。開けた空間で、この史跡の全体像を見てみよう！

②地蔵(じぞう)やぐら・唐糸(からいと)やぐら
伝説も残る、なんだか手を合わせたくくなるような、しんとした空気が魅力です！

③日月(じつげつ)やぐら

太陽と月をモチーフにしたと考えられる掘り込みが最大の特徴！



①北側平場
(平場1)



②地蔵やぐら(左)
唐糸やぐら(右)



③日月やぐら

平成20年（2008年）に実施した発掘調査により、鎌倉時代後期～室町時代にあたる13世紀後半～15世紀頃の掘立柱建物や礎石建物、火葬の跡などが発見されました。

谷戸を切り開いた場所にやぐら等と一体となった宗教施設があったと考えられ、中世鎌倉の土地利用の様子を良好に残している遺跡として平成22年（2010年）に国史跡に指定されました。

かつて、この一帯には鎌倉幕府初代執権の北条時政の屋敷があったとも言われていましたが、発見された遺構の年代は時政が活躍していた鎌倉時代初期までさかのぼらず、遺跡の状況からも、時政のような武士が住む屋敷ではなく、寺院など宗教的な施設であったと考えられます。



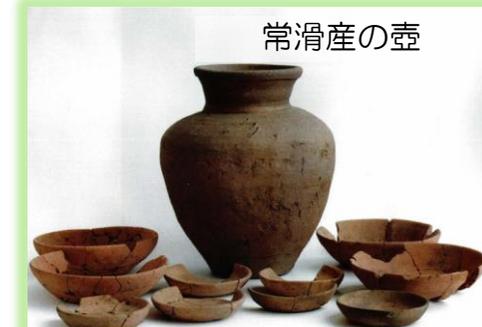
← 発掘調査に関する報告書は、左のQRコードを読み取るとご覧いただけます。

※うまく読み取れない場合は、「大町釈迦堂口遺跡 発掘調査の概要」で検索！

史跡を守るため、安全に見学してもらうために整備をしてきました



出土しました



以下からアンケートを実施しています。
本日のご感想など、あなたの声をお聞かせください。



または・・・

☎0467-61-3857（直通）

✉bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp

でもご意見承っています！

令和8年2月
鎌倉市教育委員会 文化財課史跡担当

平成22年(2010年)8月5日指定



日月やぐら

南東向きに開口する小規模なやぐらが7基並んでいます。手前から3基目のやぐらの壁に円形の龕が2箇所掘られており、その形が太陽と月の形に見えることから「日月やぐら」と呼ばれます。

地蔵やぐら・唐糸やぐら

階段を登ると、南向きに開口する大型のやぐらが2基あります。左方を「地蔵やぐら」、右方を「唐糸やぐら」といい、右方は室町時代に作られた物語「唐糸草子」において、木曾義仲の家人の娘唐糸が幽閉された石牢である伝説があります。

発掘調査の概要

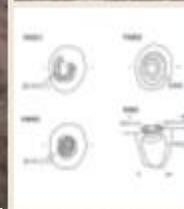
平成20年(2008年)に実施した発掘調査で、鎌倉から室町時代にかけて建物や溝が造られ、火葬も行われていたことが明らかになりました。周囲にやぐらが多数存在する状況からこの場所には寺院などの宗教的な施設があったと考えられます。また、周囲の丘陵の裾を削って谷を埋め、人工的に平坦地を造りながら土地利用が行われていたことも調査で判明しました。

左図①の地点では、13世紀後半から14世紀前半にかけての、直径40cm超の大型柱穴が並んで発見されました。建物が建っていたと考えられます。建物跡に接して、玉石を敷き詰めた箇所や凝灰岩の切り石を並べて作った溝に並行して並ぶ安山岩の礎石列確認されました。

建物跡近くでは地中の収められた常滑壺も発見され、中にかわらけが8枚入っており、壺の口は2枚のかわらけで蓋がされていました。



①で発見された建物跡(白い丸が柱穴)



↑出土した常滑壺(下は実測図)

左図②の地点では14世紀中頃から後半にかけて営まれた火葬の跡が発見されました。土を掘りくぼめた中から焼けた石や骨の破片などが出土しています。15世紀以降も平場の造成は続き③地点では北側の盛土で生じた段差部分に東西方向の土留めの石積みが作られています。平場の奥で確認された、平らに削られた岩盤面上では溝や柱穴のような掘り込みも確認されており、建物の存在が想定できます。



②で発見された火葬跡



③地点で発見された石積み

南側にある一段低い平場2の発掘調査では、泥岩にある整地層や、その上面で柱穴や礎石列が発見されており、平場1と平場2、2箇所の平場で同時期に建物等が造られていたことが分かりました。



平場2で発見された礎石列

↓遺跡の概要はこちらもご覧ください。



！ 注意事項！

- ・ 場内は全面禁煙です。 ・ 火気は原則厳禁です。
- ・ ごみ等のポイ捨て等は禁止です。 ・ 安全のため係員の誘導等に沿ってご見学ください。

地蔵やぐら・唐系やぐら

Jizō Yagura / Karaito Yagura

지조 야구라·가라이토 야구라 地蔵Yagura、唐系槽Yagura

南向きに開口する大型のやぐらが2基あります。左方は「地蔵やぐら」、右方は「唐系やぐら」と呼ばれています。

地蔵やぐらには、奥壁に岩盤から直接掘り出された地蔵菩薩坐像、その手前には鎌倉石製の大型五輪塔が2基置かれています。地蔵菩薩は像高1.2mで、台座と光背も同様に掘り出されています。両側の五輪塔の表面には阿弥陀如来を表す種子が刻まれています。風化が進んでいます。やぐらの床面や壁面には、いくつかの掘り込みが見られます。

唐系やぐらは天井の崩落もなく、遺存状態が良好です。内部は、奥壁と両側壁に沿って幅約70cm、高さ20~30cmの壇が掘り出されています。床面には、浅い溝で囲まれた50cm四方の区画があり、かつては石塔が置かれていたと考えられます。また、入口近くの左右壁には、梁を固定するためと推定される柱穴が4カ所開けられています。室町時代に作られた「唐系草子」にある、木曾義仲の家人、手塚太郎の娘唐系が石牢に幽閉された伝説から、こう呼ばれています。



地蔵やぐら

最大幅 4.8m、奥壁の幅 2.8m
奥行 3m、高さ 2.2m



唐系やぐら

玄室：幅 4m、奥行 3.3m、高さ 1.8m
羨道：幅 1.4m、長さ 1m

日月やぐら

Jitsugetsu Yagura

지쓰게쓰 야구라 日月Yagura(箭楼)

南東向きに開口する小規模なやぐらが7基並んでいます。手前から数えて3基目のやぐらの壁には円形の龕が2箇所掘られており、その形が太陽と月の形に見えることから、「日月やぐら」と呼ばれています。

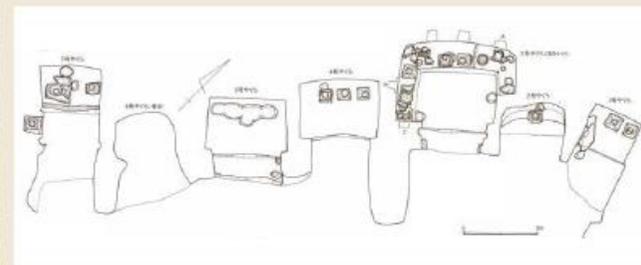
石塔が安置されているやぐらもありますが、積み替えられて組み合わせが異なっているなど、当初からの位置を保っている石塔はありません。

トンネル上部の岩盤面や、3、4m下方の斜面にもやぐら群が展開しており、釈迦堂トンネルが造られる前は、南向きの谷を囲むようにたくさんのやぐらが並んでいたと考えられます。



日月やぐら

最大幅 2.85m
奥行 2.2m
高さ 1.3m



日月やぐら等平面図